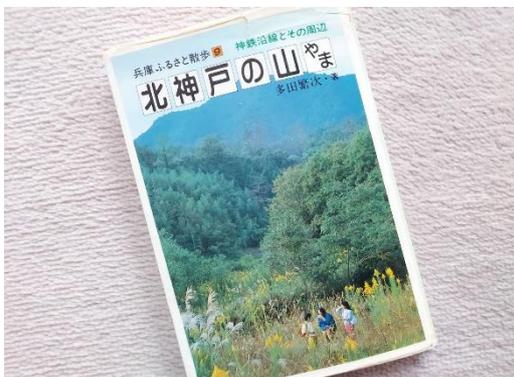
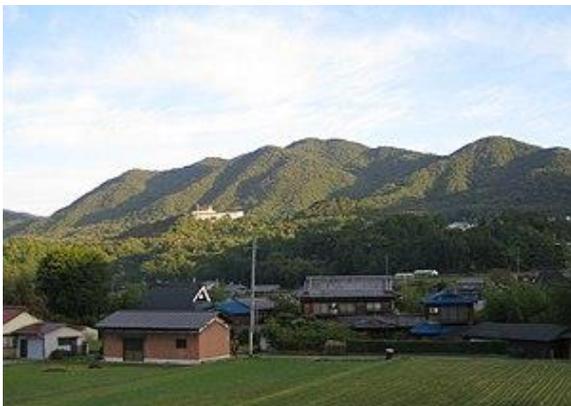


○令和4年6月26日開催 第3189回例会
兵庫県山岳連盟同調
「悲話伝説の山・稚児ヶ墓山へ」の報告
布引支部 吉野 宏（岳連普及委員会委員長）

兵庫県山岳連盟の年度とは4月1日をスタートとし、翌年3月末までの12ヶ月間を持って1年とする行政機関と変わりはない。したがって年初の1月中には年度計画を立て4月スタートに備えねばならぬ。無病息災の七草粥を口にして1週間も経たぬ日の夕食時、一杯飲みながらなんととはなしに多田繁次著「北神戸の山やま」に目をやった・・・。



“山田の里から眺めると、ふくよかな胸を張って、おもいきり両翼を広げるその容姿は、帝釈山系の最高峰にふさわしいボリューム感が溢れている”・・・遠い山行の懐かしさに誘われ、即、計画に取り入れようと思った稚児ヶ墓山案内の冒頭部分である。

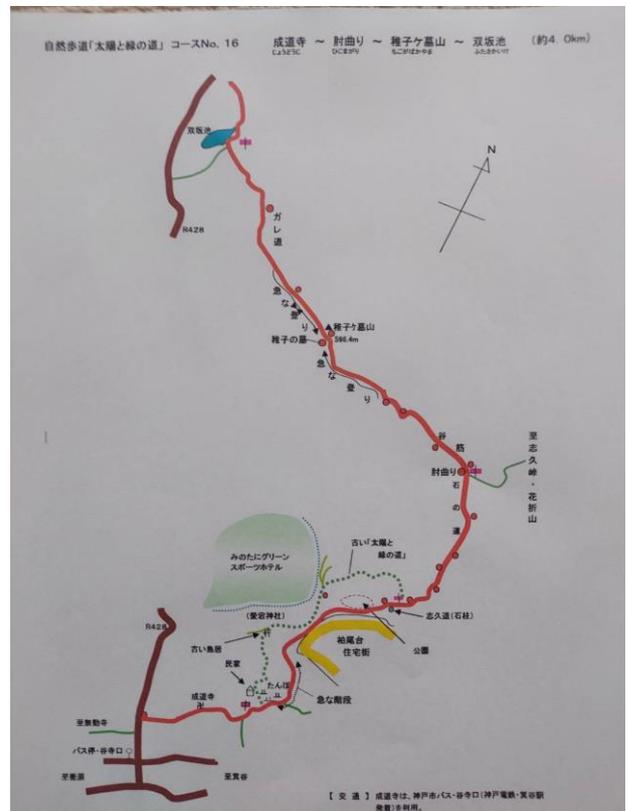


大滝口あたりから望む稚児ヶ墓山（ネット画像）

かれこれ40年近くなるだろうか？本著を愛読し、北神戸周辺の山々を歩き回った思い出が

酔いに乗せて蘇り、思い出に耽って行った・・・！

「稚児ヶ墓山」と一風変わった山名の由来は、天正8年（1580年）1月17日、羽柴秀吉の軍が三木城攻略の時、別所長治に加担していた丹生山明要寺を焼打ちして、逃げ惑う多数の稚児（侍童）をも皆殺しにした。それを哀れんだ村人たちがこの山上に亡骸を葬り、石ころを積み上げて塚を立て、手厚く弔った。その時もう一つ東の山から花（樅・シキミ）を折ってきて供えた。それで塚を立てた山を「稚児ヶ墓山」、花を折った山を「花折山・はなおりやま」とよぶようになった・・・」地元の古老の教えで有るらしいが、何とも悲しい伝説ではある。



神戸市が掲載している太陽と緑の道コース図

（下書原図は小生の提供）

昭和47年（1972年）、神戸市が市民のハイキングコースと地域文化を合わせて制定した「太陽と緑の道」。阪神淡路大震災前は市民のレクリエーションコースとして盛んに活用されていたが、交通便の廃止やコースの不整備で多くのコースが荒れており、この稚児ヶ墓山のコースも昔の縁を留めておらず、ここ3年に亘るココ

ナ感染騒動で、ほとんどハイカーの入山した形
成無し！その時点では思いもせず、今回の計
画に躊躇なく取り入れてしまった！

自然歩道「太陽と緑の道」コースNo16/
成道寺～〈志久道〉～肘曲り～〈急登〉～
稚子ヶ墓山～双坂池（約4.0km）

6月に入って下見に行けば・・・と楽観してい
たが、山案内が重なったり、モニターとしていく
べく東北の山への日程などで下見もままならな
くなり、結果、T氏に頼んで下見に行ってもら
ったが、とてもではないがブーイングが来ると
思うとの報告。悩んだ挙句、計画変更でお許しを
願うことにした。

・・・・・・・・・・・・・・・・

集合場所とした神鉄箕谷駅で参加者を待ち、
改札口で止めて一つ北の谷上駅下車に変更し
炭ヶ谷から石楠花山コースに変更することに。



炭ヶ谷道入口にて小休止



炭焼き窯後



参加予定者が全員そろわれた段階で本件を説明。
事前に申し込まれていた方や、当日参加者も説

明に納得され、無事実施する運びとなった。
出発時間は8時45分。ほとんど計画通りであ
った。

コースはハイカーが少なく、ヤマアジサイの
残る静かな炭ヶ谷を登り、双子山やマムシ谷へ
の分岐の峠へ。ここで小休止し、周辺の山やコー
スなどを簡単に説明。ここまでは一人のハイカ
ーとも出会わなかった。



未だ残っていた清楚に咲くヤマアジサイ



自然に咲くヤマアジサイは気品高いね！



この付近の笹原では年によってササユリの花
が顔を出していることがあることを伝えると、
早々にササユリの葉を見つられた参加者がお
られた。自然の植生を愛でられる方は、それな
りに山歩きを楽しんでおられるのでしょうか！

そこから烏帽子岩を案内し、それぞれに写真
を撮ったりした後、二等三角点のある尾根筋を

経由していったん一般ハイキング道へ出る。



広角レンズでかっこよく！！



石楠花山 651.93m 二等三角点・点名/上谷上

すぐに天狗岩・展望岩への獣道の様な細いルートに入り、道なりに少し下って行くと、岩の張り出した展望の良い場所に突き当たる。岩の上には上がれるのはせいぜい 10 名程度なので、4 班に分け、交代で展望を楽しんで頂いた。梅雨の晴れ間で空気もさわやか！ラッキーな展望散歩であった。



落ちないでー！・・・ 大丈夫ー夫！！」



ご年齢は？・・・ 内緒でーす！！



丹生山系全貌！右から3つ目が稚児ヶ墓山で～す！

展望磐から北西を望むと、丹生山系のほぼ全部が望め、計画していた稚児ヶ墓山の全容を登らずして試みる事が出来、少しホッとしたのは、私と下見に行ってくれたTさん、Iさんの3人だけだったでしょうか！。

元のハイキング道に戻るとすぐに石楠花山の展望所である。そこで休憩していた3名程のハイカーに、少し空間を頂き、2階展望台と二手に分かれて早めの昼食タイムとした。・・

ここからの眺めもなかなか宜しく、**黒岩尾根から西へ高尾山、再度山、鍋蓋山、菊水山・・**と普段目にしない角度からの眺めで楽しめる展望台である。

下山コースは黄連谷西尾根コースから徳川道へ出て森林植物園へと思ったが、東門へは川を渡らねばならず、前日までの降水を考え増水の可能性大なりと予想し、ドライブウェイへ下る作業道でショートカットし、森林植物園内への近道？で園内に入った。園内は数々のアジサイが今を見頃と咲いており、お目当ての見学者でゴった返していた。・・・・・

園内を自由行動・自由解散とし、無事好評の内終了することが出来た。



園内のアジサイ



参加者：男性 14 名、女性 24 名、合計 38 名。

天 候：晴れ時々曇りの登山日和であった。

.....



何時かは稚児ヶ墓山へ来てね～